

やまなしの福祉

3 No.364
2022
月号



特集

多文化共生にむけて

～山梨で暮らす外国人の子育て世代の支援の現場から～

② 小規模保育園「みんなのいばしょ」(中央市)

⑦ 福祉県政レポート
外国人地域生活サポーター

⑨ 県社協情報
福祉・介護職対象ゆるゆるミーティング
コロナ禍での介護講座・研修の開催について

⑩ 山梨県シルバー俳句大会作品募集
県社協賛助会員のご紹介

⑪ 社会福祉HERO'S
～社会福祉法人 和告福祉会～

⑫ 善意をありがとう

多文化共生に向けて

～山梨で暮らす外国人子育て世帯支援の現場から～

小規模保育園「みんなのいばしょ」(中央市)

近年、日本における高齢化の進展や生産年齢人口の減少により、外国人労働者の受け入れが活発に行われています。現在山梨県でも1万7千人を超える外国人が在住しており、その数は年々増加しています。「多文化共生」に向けた取り組みが本格化し、10数年が経過した現在でも、依然として言葉や文化に関する隔たりは大きく、お互いを尊重し、ともに暮らしていく地域を作っていくためには、より一層お互いの暮らしや文化のことを知っていくことが必要不可欠になっています。

そこで今回は外国出身の方々の支援に取り組んでいる「多文化リソースセンターやまなし」が運営する小規模保育園「みんなのいばしょ」(中央市)を訪ね、保育現場での事例を通じて「多文化共生」について考えます。

外国籍の子どもたちが 言葉や文化への親しみがもてるよう 日本語教育支援を

「みんなのいばしょ」のある中央市に居住している外国人数は1,980人(令和3年6月末現在)。甲府市(5,577人)に次いで多く、なかでもブラジル国籍の人は1,251人と6割以上を占めています。「みんなのいばしょ」は当初、大人も含めた日本語教室としてスタートしましたが、外国籍の家庭の子どもたちへの日本語教育に対する要望が多く寄せられたことから、無認可保育園の運営をスタートし、2017年に認可保育園として開園しました。

「朝ですよ。おはよう。ニワトリさんが言っているね」。保育士が外国籍の子どもたちに日本語の絵本の読み聞かせをしています。現在、ブラジル、アメリカ、ペルー、タイなどの出身の両親を持つ0歳児から2歳児までの9人の子どもたちの保育をしています。スタッフは施設長の元山ミエコさんや保育士など8人。日系ブラジル人の元山さんらポルトガル語を話すスタッフもいますが、ほとんど話せない日本人スタッフもいます。

地域の人や他の園児と交流も

園の一日は一般の保育園と変わりません。午前7時から9時半にかけて子どもたちが登園することから始まります。朝の会や絵本の読み聞かせ、お散歩、給食、お昼寝などの後、午後3時半から夜にかけてお迎えになります。延長保育もあり、送っていくこともあるそうです。

日本の保育園の子どもたちとの交流も図っていますが、残念ながら今は新型コロナウイルスの影響でなかなかできません。散歩の際には「近所の方にあいさつしようね」と教えたり、近所の方も散歩で通りを通るのを待っていて声をかけてくれたりと、子どもたちを温かく見守ってくれているそうです。



外国籍の子どもたちが国際色に富んだ環境の中で、外国籍である個性を尊重し、日本の文化に慣れ親しむ保育を実践しています。



熱心に絵本に見入る園児たち



小規模保育園「みんなのいばしょ」の園舎

5年前から保育士として勤務する斉藤恵利さんは「まったくポルトガル語が分からなかったのが大丈夫かな、とも思いましたが、日本語で保育してください、とのことで勤務することにしました。言葉が分からなくても子どもたちと自然とコミュニケーションがとれることも多いです。卒園したら日本の保育園に行くので、日本語がそんなにうまく話せなくても、相手の言うことを聞き取って理解できるようにはしてあげたい」と話します。元山さんは「日本の保育園に勤務経験のある斉藤さんがいることで教えられることが多く助かっています」と感謝しています。



保育士の斉藤恵利さん

日本語と母国語を使い分け 互いの文化の理解を手助ける

「基本的に保育は日本語でします」と、施設長の元山さん。ここで2歳まで保育を受けた子どもたちは、3歳になると一般的な公立の保育園や幼稚園に通うこととなります。それまでに基本的なあいさつなどの日本語や日本の習慣、文化を身に付けさせて保育園に行っても溶け込めるようにしています。

ただ家では、保護者には「自分たちのよく使う言語で話してください」とお願いしています。子どもたちが日本語を学ぶうちに、日本語が第一言語となることで、母国語を話す保護者とのコミュニケーションが取りづらくなるケースがあるからです。元山さんは「子どもたちもよく理解していて、例えば子どもが『おしっこ』と言う時、ポルトガル語で『シシ』ですが、家では『シシ』と言って母親に教え、ここに来ると日本語で『おしっこ』と言って私たちに教えてくれます。ポルトガル語と日本語を自然に使い分けができるようになります」と話します。

また、文化の違いが出るとされる食事についても気を遣います。日本の食事は主食・副菜などを小皿に分けて食べますが、出身国での食文化の影響もあり、一皿に盛り込まれている食事などに親しんでいる子どもたちも多く、日本の食事の仕方やマナーも教えるようにしているそうです。

こうした生活の場面を通じて習慣や言葉を理解していった子どもたちは、家庭や保育園・小学校等で、同じ背景を持つ友達に言葉の意味を教えてあげたり、こういうときはこうするといいいよと自然にサポートする姿が見られているそうです。

「卒園した子どもたちも時々会いにきてくれたり、近況について連絡をくれたりしています。また、保育園や学校の先生たちからも報告や相談をいただいております。卒園後も継続して関わりを持ち、子どもたちや親御さんに必要なサポートをしています」と話しています。



お母さんたちが安心して相談できる場所を

元山さんに、日頃子どもたちや保護者の方と接するなかで感じている困りごとについて伺うと、一番はやはり「言葉の壁」が大きいといいます。特に外国人のお母さんの不安はとて大きく、出産などのライフイベントで頼れる親族等も少ない中、慣れない文化の中での子育てなどで苦労されている方が多いといいます。「出産に向けてお母さん教室など、不安軽減の取り組みが行われていますが、本当は行きたいと思っても言葉が分からないことや通訳の手配などが必要になるため、『やめておこう』となってしまいます。受診の際にも何か不安なことがありますか?と聞いてくれますが、やはりその場では本音を話しにくいいため、文化の背景を理解してくれて、お母さんの話をゆっくり聞いてくれる場所が増えるといいなと感じています。また、国によって子育ての考え方や方法に関して違いがあるため、出身国での子育ての様子などをよく聞きながら、相手の視点を通してなぜこうした対応が必要なのかを理解してもらえようコミュニケーションをしてもらえると嬉しいです」と話しています。



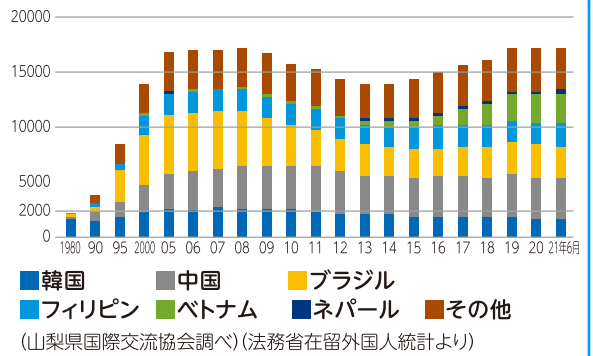
外国籍である強みを生かし、文化の架け橋に

元山さんは、自身の経験に照らし合わせて私たちにこう思いを伝えてくれました。「私は100%日本人でもないし、100%ブラジル人でもありません。だったら50%/50%でいいじゃないか、そういったバックグラウンドがあるからこそ、両方の架け橋になれると思っています。外国にルーツがあるという自身のアイデンティティを生かして、ルーツとなる国の言葉や文化も大切にしながら、日本の文化の中でどのようなことができるのか。そうした子どもたちの可能性を広げていくことが私たちの使命だと感じています」。

山梨県内の在留外国人数

法務省の「在留外国人統計(旧登録外国人統計)」によると、山梨県内の在留外国人数は2021年6月現在で1万7,185人。中国が3,722人で最も多く、ブラジル2,896人、ベトナム2,729人、フィリピン2,019人、韓国1,649人と続く。その他、ペルー(662人)、タイ(602人)、台湾(472人)、ネパール(358人)など100カ国近くの外国人が在留している。山梨県国際交流協会によると、08年の世界不況(リーマン・ショック)で多くの外国人が職を失い帰国する人が相次いだ。08年の1万7,281人をピークに14年には1万3,990人に減少したが、翌年からは増加に転じた。国別では、リーマン・ショック前はブラジル人が5,000人を超えて圧倒的に多かったが、近年は技能実習制度で来日するベトナム人が08年の155人から約18倍に急増している。

山梨県内の在留外国人数の推移(1980年~2021年)



子どもたちには自分のやりたいことを成し遂げる人になってほしい

ダビ君(1歳7か月)のお母さん
三浦カロリネさん(ブラジル国籍)

三浦カロリネさんとダビ君



—山梨での暮らしをどのように感じていますか？

夫、子ども2人、義父母の家族6人でブラジルから日本にきました。山梨に来て3年目です。山梨は、交通面、安全面など子育てに良い環境です。仕事の面でも長期契約で安定しています。地域の方も親切で、私も友人がたくさんできて楽しいです。

—あなたにとって「みんなのいばしょ」はどんな場所ですか？

「みんなのいばしょ」は、わたしたちの言葉も家庭の事情もよく理解して対応してくれ、信頼しています。ダビの兄もここで保育を受けてから公立の保育園に行きました。4月に小学生になって友だちを作ることを楽しみにしています。

—暮らしの中でどのような困りごとを感じていますか？

日々暮らしていく中で感じていることが3つあります。

まず1つ目は医療が必要になったときです。子どもが発熱したりなど病気の時、日本語が分からないため通訳を雇う必要があります。あらかじめこの病院には通訳がいますなど、そうしたサポート体制のあるところがわかれば緊急の際にも行きやすいと思っています。

2つ目はビザの更新手続きが大変です。海外から書類を取り寄せたりなど提出が必要な書類が多いため、更新手続きをもう少し簡素化してほしいです。また、家族6人分となるとビザの更新の費用も大変です。

3つ目は居住に関することです。外国籍でアパートを借りる場合は永住権か日本人の保証人が必要なことが多く、会社などを通すと結構、費用がかかってしまいます。もっと家を借りやすくなり、家族の規模に合わせた場所での暮らしができればと思います。また、来日のための渡航費のローンなどもあり、家計は大変です。そうした生活費をまかなうためには長時間仕事をする必要があり、子どもたちと過ごす時間が少なくなるのがつらいです。

—子どもたちにはどんな大人になってほしいですか？

子どもたちには、しっかり勉強して自分のやりたいことを成し遂げるような人になってほしいです。ダビの兄は保育園の放課後にポルトガル語を勉強しています。「みんなのいばしょ」でサポートしてもらったことで、日本語とポルトガル語の2つの言語をしっかり使えるようになって将来は元山先生みたいに語学を生かした仕事をしたいと言っています。私たちのように長時間働かなくてもいいような仕事をする人になってくれたら嬉しいと思います。

私自身の経験があるからこそ 外国籍の子どもたちと家庭を サポートしたい

「みんなのいばしょ」施設長の元山ミエコさん

日本語が出来ずに学校で苦勞

「みんなのいばしょ」施設長の元山ミエコさん(29歳)は日系ブラジル3世。8歳の時に出稼ぎの親とともに来日、山梨に来ました。日本語はまったく分からなかったため、2人の姉妹とともに認可外ブラジル学校に通っていましたが、1年くらい通ったところで授業料が高額で支払いが大変だったため退学。その後、公立の小学校には、親が子どもたちを日本の学校に行かせるのを心配して拒んだため、行くことができませんでした。

2年間ほど姉妹で家にこもっていましたが、5年生の途中から小学校に通えるようになりました。しかし日本語も日本の学校の規則も分からず、授業には追い付いていけないし、なかなか同級生の輪の中に入れませんでした。高学年からのスタートのため、使われている日本語を理解するために6年間で学ばなければならぬ漢字を1年で学ばなければならぬなど大変な苦勞をしました。その時日本語を教えてくれた先生がすごく楽しく日本の言葉や文化、ルールなどを教えてくれたおかげで、学ぶことの楽しさを知ったそうです。こうした経験から「自分と同じような外国人の子に日本語を教えたい」と将来の夢を持つようになったといいます。

「夢をかなえる」と日本語教室を手伝う

ブラジル食品販売店で働いている時に、多文化リソースセンターやまなし代表の加藤順彦さんから「日本語教室を手伝ってこないか」と誘われ、「夢をかなえるチャンス!」と決断して日本語講師のサポーターとして勤務することになりました。日本語教室を行うなかで子どもや親御さんへのサポートの必要性を感じ、加藤代表と相談して、子どもたちのための保育所を始めることになりました。自分たちの保育所に加えて、日本の公立小学校や中学校に通う外国籍の子どもたちの補習授業もしました。「子どもたちが学校に行っても苦勞しないようにしたい。自分はとても苦勞したから」と話します。

家庭からの相談にも応じる

元山さんの日本での暮らしは20年以上になります。ポルトガル語と日本語を話し、日本の習慣や文化も理解できるようになりました。子どもたちに日本語を教えるだけでなく、日本語が不自由で日本のルールについても不案内な子どもたちの保護者や知人の手助けも積極的に行っています。日本での出産の際のサポートや、役所の書類の内容説明や記入サポート、ビザ(査証)の更新手続きなどの相談にも応じています。必要な申請ができずに不法滞在になってしまう家庭を生まないよう、保護者のビザの期限が近づいてきた際には連絡もしています。

外国籍の方々の実態として、出国時に費用を借り入れている場合も多く、在留資格の更新や居住に関する手続きや通訳の費用など様々な生活コストや手続きが必要となるため、そうした費用を含めた生活費を賄うために長時間労働となる場合が少なくないそうです。そのため時間的・費用的な面でも困難が多く、暮らしの中でのサポートを必要としている家庭が多いといいます。「大変さを感じることもありますが、子どもたちの役に立っていると思うと、やってきて良かったな、との思いのほうが強いです」と話す一方、「この子たちと家庭をどうサポートしていったらいいのか」と悩むこともあるといいます。個人的な支援だけでは限界があるため、外国人ならではの困りごとや苦勞を知ってもらうことで、地域や社会での支援が広がっていくことがともに生きていくために大切な視点ではないかと話してくれました。

最近、かつての教え子から「高校を卒業して専門学校に入りました。感謝しています」と連絡がありました。その子は以前不登校で日本語も漢字もできなかったのですが、日本語を学ぶ楽しさを知り、本人の努力もあって順調にここまで進学できたそうです。「頑張っていると分かって本当にうれしかった。この子が将来どんな人になっていくのかすごく楽しみです」と笑顔で話してくれました。



多文化共生に向けて

小規模保育園「みんなのいばしょ」の運営や日本語教室、相談窓口の開設など山梨県内に居住する外国人のサポートを行い、外国人に寛容な優しい社会の実現に向けて活動をしている「一般社団法人 多文化リソースセンターやまなし」の加藤順彦代表に、多文化共生について伺いました。



一般社団法人
多文化リソースセンターやまなし代表
かとう よりひこ
加藤 順彦さん

多文化共生の第1ステージを振り返って

多文化共生という言葉が世の中で広まったきっかけは1995年の阪神淡路大震災だったので、既に27年が経過したことになります。当時の神戸には相当数の外国人が住んでいましたが、災害時に困っている外国人をサポートする多言語マニュアルはどこにもありませんでした。その後、田村太郎氏が多文化共生センター大阪を立ち上げて、多文化共生の標語の下に日本に住む外国人のサポート態勢を創り上げ、各地に災害時の多言語情報センターが設置されるようになりました。その流れによって、地域における国際化の推進役を担う自治体国際化協会(CLAIR/クリア)が多文化共生マネージャーの養成研修を行うようになりました。現在では全国に600名を越すタブマネ(多文化共生マネージャーの略称)がいて、行政・民間NPOが企画する国際交流・国際協力・多文化共生分野における様々なイベントが行われるようになりました。

多文化共生の第2ステージに向けて、 異文化交流の拠点づくりが必要!

この27年が多文化共生の第1ステージとすれば、今は第2ステージの入口に差し掛かっている訳で、現在までの歩みを振り返り更なる多文化共生の推進に向けた展望が望まれるところです。身近な所で多くの外国人を目にする割には日常において外国人住民との接点はそんなに多くはなく、異文化に触れる機会も少ないというのが一般的な日本人の思いではないでしょうか。

私どもの認可小規模保育園(中央市・南アルプス市の2か所)はまさしく日本人と外国人のお子さんの居場所としての役割を十分に意識して作られた施設であり、異文化の特徴を加味して多言語・多文化・多国籍の雰囲気溢れており、お子さんたちが将来どんな子どもに育っていくのか、スタッフの一人として楽しみが湧いてきます。自分の知らない世界とつながっていくことで、子ども達の夢が膨らみ、学問や職業での選択肢が広がって行くと考えられます。

多文化共生を理論で勉強するだけではその広がりには限界があり、やはり違う国同士の人々が直接知り合う機会を増やしていくことが大事ではないかと思います。そのためにも、日本人と外国人が知り合える居場所づくりが大切であり、海外には出かけられない今、県内にある異文化体験施設(多国籍料理店・多国籍食料品店)巡りのツアー、異文化体験スタディツアーや海外物産展を通して異文化への関心・興味を高めることも大事だと思います。

この様な時代にこそ、柔軟な発想に基づいた多様性に富んだ副産物としての斬新な試みやチャレンジが行われることを期待しています。

一般社団法人 多文化リソースセンターやまなし

【甲府事務所】〒400-0031 甲府市丸の内2-30-5 甲府電化ビル3階

TEL・FAX 055-288-0872 HP <https://www.tabunkayamanashi.com>



全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料(1名あたり)

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
賠償責任の補償	賠償責任保険金(対人・対物共通)		×	○	
年間保険料			350円	500円	

商品パンフレットは
こちら



(ふくしの保険
ホームページ)

団体割引 20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

送迎サービス補償 (傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

コロナ禍での介護講座・研修

「オンラインのみ」のほか「ハイブリッド形式」でも開催

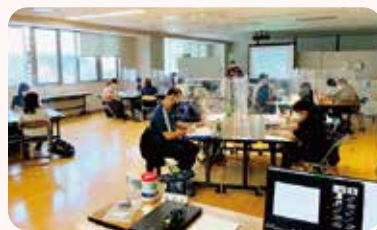
介護実習普及センターでは、県民の皆さんや介護に携わる方などを対象に、介護についての知識や技術を習得するための様々な講座・研修を開催しています。

新型コロナウイルス感染症のもとでの講座開催にあたっては、受講者の検温、マスクの着用のほか、アクリル板の設置やフェイスシールドの併用等、感染症対策を講じています。また、実技が伴う場合はモデル人形を用いて行い、受講者は間隔を広く空けて見学する等の対策をしています。

さらに、受講者から、「参加したいけど感染が心配で…」等のご意見があり、昨年度よりオンライン(Zoom)を取り入れた講座を開催することとしました。

今年度からは、オンラインのみで行う講座のほか、会場開催とオンライン開催を併用した「ハイブリッド形式」での講座も開催しています。

実技を伴う講座では、受講者の目線でビデオカメラを操作するなど、オンライン受講の方にも分かりやすいよう、映像の工夫をしています。



介護職員向け研修
「レクリエーション技術」
=令和3年9月17日(金)



介護職員向け研修
「フットケア」
=令和3年10月7日(木)

オンライン研修 参加者の声

コロナが心配な中、講座をオンラインで受けられたので、安心感があった。

オンラインでの参加でしたが、勉強になり、楽しかった。

気軽に参加でき、オンラインでやっていただくと参加出来る回数も増えてとてもよかった。

福祉・介護職対象 「ゆるゆるミーティング」を開催しました!

山梨県福祉人材センターでは、令和2年度と令和3年度に本センター経由で就職された福祉・介護職員を対象に、日頃抱えている業務上の悩みや対処法を“ゆる～い感じ”で話し合う「ゆるゆるミーティング」を開催しました。(1月22日、27日、2月2日)

当初は、対面式での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の急拡大により、オンライン(Zoom)形式に変更して開催しました。

当日は、山梨県立大学の中島朱美先生が福祉・介護現場で多い悩みと解決例をテーマとした「ミニ講義」と参加者が日頃から抱えている悩みやその対処法などを気兼ねなく話し合う「ミーティング」の2部構成で行いました。

ミーティングでは職場の上司との接し方や利用者さんとのやり取りの悩みなどが話題に上げられ、他の参加者から実践している対処法や中島先生からの助言を貰うなど、互いの悩みを共有し、共感していました。

本センターでは、今後も福祉・介護職員の皆さんが“ゆる～い感じ”で交流出来る場を計画していきますので、福祉・介護職員の皆さんのご参加をお待ちしています。



参加者の感想

なかなか相談できない悩み事を話すことができてよかった。

悩みに対して違う視点・角度で向き合うことができた。

職場内の意見交換も大事だが、他の施設の取り組みも聞くことができてよかった。

いきいき山梨ねんりんピック2022

山梨県シルバー俳句大会 俳句作品募集

いきいき山梨ねんりんピックの一環として開催している、
山梨県シルバー俳句大会の作品を募集します。

【応募資格】 山梨県在住の60歳以上のアマチュア(昭和38年4月1日以前に生まれた方)

【応募方法】 はがきに未発表作品1人2句以内(雑詠)を楷書で記入し、必要事項(住所、氏名、生年月日、年齢、性別、電話番号)を明記のうえ応募期限までに郵送してください。投句料は無料です。

【留意事項】 俳句作品、氏名等の漢字には必ずふりがなを付け、楷書にて誤字・脱字のないよう記入してください。

【応募期限】 令和4年3月18日(金)

応募・問い合わせ先

〒400-0005 甲府市北新1-2-12 山梨県福祉プラザ4階
山梨県社会福祉協議会 福祉振興課
「山梨県シルバー俳句大会係」宛 ☎055-254-8610

県社協賛助会員のご紹介

※50音順・敬称略

本会は「人と人が支えあい、認めあいながら、だれもがその人らしく地域で安心して生活できる、福祉文化の創造」を経営理念に、社会福祉に関わる皆様と協力をしながら地域福祉を推進するための事業に取り組んでいます。

賛助会員制度は本会の理念にご賛同いただき、資金的な面から本会の活動をご支援いただくものです。会員の皆様のご協力に深く感謝申し上げますとともに、引き続き温かいご支援をお願いいたします。

- ・株式会社 アピオセレモニー
- ・アルファシステムサービス株式会社
- ・anlib株式会社
- ・株式会社 内田印刷所
- ・株式会社 オーツヤ測量
- ・株式会社 長田玉夫商会
- ・株式会社 オズプリンティング
- ・春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
- ・関東自動車共済協同組合山梨県支部
- ・株式会社 峡南堂印刷所
- ・株式会社 サンカイゴ
- ・山日YBSグループ
- ・株式会社 下部ホテル
- ・大日商事株式会社
- ・太平ビルサービス株式会社甲府支店
- ・大和証券株式会社甲府支店
- ・鶴田電気株式会社
- ・東洋羽毛首都圏販売株式会社
- ・株式会社 トヨタレンタリース山梨
- ・税理士法人 中山・久保嶋会計
- ・野村証券株式会社甲府支店
- ・ParuPi株式会社
- ・富士急行株式会社
- ・有限会社 平和プリント社
- ・株式会社 松下製作所
- ・株式会社 マルモ
- ・みずほ証券株式会社甲府支店
- ・山梨学院短期大学
- ・公益財団法人 山梨厚生会
- ・山梨信用金庫
- ・株式会社 山梨中央銀行
- ・株式会社 山梨毎日広告社
- ・株式会社 YSKe-com
- ・株式会社 YBS T&L

※令和4年2月1日現在の賛助会員46団体・個人4名のうち、掲載の承諾をいただいた34団体を掲載しています。



社会福祉の仕事はクリエイティブで面白い! この仕事の魅力をもっとみんなに伝えたい!
 そんな熱い思いをもつ全国の若手スタッフによるスピーチコンテスト、
 それが「社会福祉HERO'S」。第4回となる今年度は、オンライン配信により開催!

山梨県から初、樋川真由佳さん(社会福祉法人 和告福祉会)が参加

厳正な審査のもと、全国から7名のヒーローが今年のプレゼンターとして選出され、今回初めて山梨県より樋川真由佳さん(社会福祉法人 和告福祉会)が選ばれました。そこで、今年のベストオブヒーロー賞を目指してスピーチコンテスト(2022年3月15日開催予定)に参加する樋川さんにお話を伺ってきました。



樋川真由佳さん

樋川さんはどのようなお仕事をされていますか。

私は、障がい者就労支援事業所 和告学園(わこうがくえん)という就労継続支援B型事業所で主任支援員として、障がいや病気を持つ方の企業などへの就労に向けた生活面や仕事面のサポートを行っています。

利用者は就労に向けた訓練として、事業所内で軽作業などのお仕事をしています。その場としてCafé Village和告学園があります。

この仕事をはじめたきっかけについて教えてください。

はじめは特に福祉の仕事に就きたかったわけではなく、仕事を探しているときに知人からウェイターの仕事を紹介していただき、アルバイトとしてCafé Village和告学園に勤め始めたのがきっかけです。

当時は支援員ではなく、カフェのウェイターとして利用者と一緒に仕事をしていたので、利用者の方々は「同僚」という方が正しいですね。

その後、仕事を続けていく中で支援員として働きたいと思いはじめ、現在は管理者兼主任支援員として働いています。

Café Village和告学園はどんな所ですか。

和告学園は皆さんが普段行くカフェと同じです。障がいのある方と私たち職員がスタッフとして接客を行っていますので、ちょっと個性的な店員さんが多いお店だと思ってください。

現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、店内でのレストラン業務は行っていませんが、クラウドファンディングを利用して導入したキッチンカーで営業しています。



「社会福祉HERO'S」当日、どんなことを視聴者に伝えたいかお聞かせください。

今回、施設長からHERO'Sに出てみないかと声をかけて頂き、チャレンジしたいと思って応募を決めました。

この仕事に就く前は“障がい”に対してネガティブなイメージがありましたが、ここで仕事を始めて“すこし変わった個性”というイメージに変わりました。障がいのある方にもそれぞれの個性があります。障がいがあることを特別視せず、「自分たちとそんなに変わらない」ということを、私がここで経験してきたことを踏まえ伝えたいと考えています。

また、クラウドファンディングでは私たち職員と利用者が目標達成に向けて共に努力し、多くの方からご支援いただいたことで目標額を達成でき、素晴らしい経験をしていると感じています。

私たちが和告学園で取り組んできたことが認められ、プレゼンターに選ばれたと思っているので、自信をもって発表をしたいと思います。

「社会福祉HERO'S TOKYO 2021」の配信案内

●日時: 2022年3月15日
 YouTubeにてライブ配信

●詳しくは
 「ひとりひとりが社会福祉HERO'S」
 ホームページをご確認下さい
<http://www.shafuku-heros.com/>





善意をありがとう

山梨ともしび基金へのご寄付

「山梨ともしび基金」に対し、山梨県労働者福祉協会・連合山梨(窪田清会長)様より、それぞれ、10万円のご寄付をいただきました。

山梨県労働者福祉協会様は、昭和62年から35回目、連合山梨様は平成8年から26回目のご寄付となります。いただいたご寄付は民間福祉活動の助成を行う「山梨ともしび基金」で大切に活用させていただきます。ありがとうございました。



福祉巡回車、車いす用体重計、老人福祉施設用備蓄セットの寄贈

一般社団法人生命保険協会山梨県協会(上倉幸治会長)様より、福祉巡回車1台を笛吹市社会福祉協議会(橋田尚常務理事・左の写真右)へ、車いす用体重計1台を社会福祉法人緑樹会障害者支援施設グリーンヒルホーム(塩田副施設長・右の写真右)へ、併せて老人福祉施設用備蓄セット3日間8人滞在用を寄贈いただきました。

贈呈式では、一般社団法人生命保険協会山梨県協会CR担当副会長・根津雅憲様(各写真左)にご出席いただき、車椅子用体重計、福祉巡回車・老人福祉施設用備蓄セットを贈呈いただきました。

生命保険協会山梨県協会様は、CR(コミュニティ・リレーションズ)活動として、平成4年度より会員各社で「ふれあい募金」を実施し、集められた浄財を原資にして、寄贈いただいております。福祉巡回車の寄贈は30年連続で52台目、車いす用体重計は9年連続で9台目、今年度、新たに老人施設用備蓄セットを寄贈いただきました。

ありがとうございました。



広報誌「やまなしの福祉」をパソコンやタブレットで閲覧

広報誌「やまなしの福祉」は、本会ホームページでPDF版の閲覧ができるほか、電子ブックでもご覧になれます。

ホームページ <http://www.y-fukushi.or.jp>

3月号は以下の通りです。

3月号のID
yfukushi364

Android用



iOS用



※パスワードは必要ありません

読者アンケートのお願い

今後の広報誌づくりの参考にさせていただくため、アンケートにご協力をお願いいたします。
※右のQRコードよりご回答ください。



ご利用している福祉サービスについて

「こうしてほしい」

と思っていないませんか?



「なおしてほしい」

と望んでいませんか?



山梨県福祉サービス運営適正化委員会が疑問・要望などのご相談に応じます。

山梨県福祉サービス運営適正化委員会

住所:甲府市北新1-2-12 県福祉プラザ4階

☎055-220-3030

【受付時間】

平日 午前8:30~午後5:15

WEBサイトが
できました!

<https://sites.google.com/view/y-fukushi-jinzai>



Twitterが
できました!

<https://twitter.com/yfukushi1>



山梨県福祉人材センター